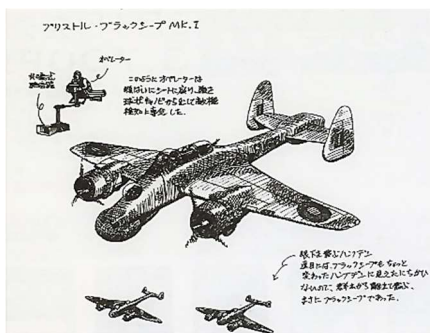


ワケ カタチには理由がある(番外編1)

～ブリストル・ブラックシープ(Black Sheep)戦闘機



MG誌1997年10月号
(この頃の同誌は右綴じ!)



←応募時に描いた設定図



筆者オリジナルのフェイク機です。1997年にモデルグラフィックス誌で開催された、「世界の駄っ作機コンテスト」に応募して、幸運にも金賞をいただいた作品です。設定としては、1940年の「バトルオブブリテン」において使用された英国空軍の機体で、ブリストルがポーファイターと並行して開発した機体というものでした。機首に音響共鳴ボックスを装備し、ドイツ空軍のダイムラーエンジン特有の音響周波数を増大して探知し、迎撃するという機能を持たせて形状をデザインしました。機首に機銃を設けたため、一度機銃を発射すると、音響共鳴ボックスの調整が狂って継続使用ができなくなる、というオチ設定も付けました。もう、24年も前の話ですが、受賞の際、誌上でのインタビューはお断りしたものの、編集部で岡部いさくさんとお話しさせてもらったのは良い思い出です。飛行機的设计など、能力と立場と時代が揃ったほんの一握りの人間しか行えませんが、模型の世界ではそれを疑似体験できます。模型作りの魅力の一つと言えます。

【模型について】

胴体は木材からの削り出しですが、主翼はマッチボックスのポーファイター、水平尾翼はレベルのHe219、垂直尾翼はモノグラムのB-25を削ったものを組み上げています。また、共鳴ボックスを収納する特徴的なドームはフジミのシースプライトのレドームを使い、オペレーターの透明ドームはモノグラムのB-36の観測ドームを使っています。(中川裕幸 2021年3月)